

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市あじさい大学運営委員会 (令和 2 年度第 1 回)			
事務局 (担当課)	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課 電話 042-769-8354(直通)			
開催日時	令和 2 年 9 月 8 日 (火曜日) 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 5			
開催場所	相模原市立あじさい会館 6 階 展示室 1 ・ 2			
出席者	委員	9 名 (別紙のとおり)		
	その他	3 名 (相模原市シルバー人材センター職員)		
	事務局	6 名 (地域包括ケア推進部長、高齢・障害者福祉課長 他 4 名)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
				なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 令和 2 年度あじさい大学について</p> <p>(2) 令和 3 年度以降のあじさい大学について</p> <p>(3) その他</p>			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 あいさつ

小林委員長あいさつ

地域包括ケア推進部長あいさつ

3 議題

次第に沿って、小林委員長の進行により議事が進められた。

(1) 令和 2 年度あじさい大学について

事務局から資料 1 に基づき説明し、了承された。

【主な質疑】

今年の応募について、昨年度 9 3 0 名に対し本年度は 4 4 2 名で半減となっている。コロナの関係で応募者も手を挙げなかったのかという感じがするがいかがか。

今は、スポーツ関係は感染症対策を講じた中でやっていると思う。私の地区でも、屋外行事は行おうという話が出ている。屋外での短期講座は、感染症対策として 4 0 名から 3 0 名に減らし、マスクや検温などの対策を講じた中でやろうとしていたのだろうが、中止した最終判断は、市の行事が 1 2 月 3 1 日まで中止したことが一番の影響か。

応募者の状況であるが、半減した要因として、新型コロナウイルスの影響から応募を手控えた方もいたと想像している。また、募集案内を配置予定であった公民館などが配付時期に閉鎖されたため、募集案内を手にとって見ていただく機会が減ったことも要因の一つと推測している。

短期講座の屋外スポーツ学科については、屋内よりは安全性が高いことから準備を進めていたが、全国的な感染拡大を懸念する状況があったことを受け、本市として 7 月末に本年 1 2 月 3 1 日までの事業の原則中止を決定したところである。危険性を考えての決定であり、あじさい大学についても同じ対応をしたものである。

(2) 令和 3 年度以降のあじさい大学について

事務局から資料 2 に基づき一括して説明を行い、了承された。

【主な質疑】

< 資料 2 「 1 新型コロナウイルス感染症対策等について」関係 >

公民館においても感染症対策はシビアに行っている。体温測定、公民館来館時の消毒、使用した場所等の消毒、マスクの着用そして換気、手洗い、ソーシャルディスタンスの確保など、少しでも感染リスクが少なくなるようなことをやっている。続けなければならないと思うが、最近は少し気が緩んできたかなと思うので、引き締めなければいけな

いと感じている。

スポーツ協会の取組みだが、基本的な感染対策をし、スポーツ競技会は原則中止としている。幾つかの種目協会、例えば水泳協会では、既に何回か競技会を行っているが、感染対策として選手は1ヶ月以上前から熱を測り、当日は靴の裏を消毒して袋に入れて会場に入り、また、千人規模の会場で観戦者を200人くらいに抑えるなどしっかり行っている。いろいろなところから出ているガイドラインを上回ることが求められていると思っている。

今後、あじさい大学は、主催者側、受講される側両方からの取組みが大事になる。

<資料2「2 令和3年度あじさい大学の開催について」関係>

欠席委員から頂いた意見2点を報告する。

1点目は、委員が講義している大学では、大学構内に入れずオンライン授業を行っており、あじさい大学でもオンライン授業を検討したらいかがとのことである。

なお、仲間づくりについて伺ったところ、オンラインでは対面とは少し違い、顔見知りでない場合には難しいところがあるのではとのことである。

2点目は、健康1などの学科の名称について、わかりやすい表現にしたらいいかとのことである。

<資料2「3 令和4年度以降のあじさい大学について」関係>

従来のあじさい大学の形を変えるということか。

従来の形を変えざるを得ないと考えている。どのように変えるのかについて、いろいろ意見をいただき、検討していかなければならないと考えている。具体的には市民大学も同じような課題を有しているの確認しながら進めることで、より良い方向になるのではないかと考えている。

市民大学との連携とは、一緒に何かをやるというイメージか。

これから検討したいと考えている。市民大学に参加する各大学の講座にあじさい大学から生かせるものがあるのか、それとともにあじさい大学に市民大学から取り入れるものがあるのかということも検討することになると思う。どのように変えるのかを急いで検討していきたいというのが趣旨である。

今、このコロナの中で新しい生活様式に変えなければいけない。ワクチンの問題など、今後コロナも変わる状態での対応の仕方だが、令和4年以降のあじさい大学に関しては、やはり先の見通しが見えない状態である。そのためその都度その都度少しずつ対応できるようにした方が良いのではないかと。どのようになるのかわからない状況の中で生活様式を無理やり変えるのではなく、同時進行で変えていくしかないのではないかと。

公民館などの会場の使い方も違ってきている。今までは使用時に体温や電話番号を書かなければならなかったが、2～3日前から連絡先は書かなくて良くなった。体温も今、家で測ってくれば会議のときは書かなくてもいいと、市の対応がどんどん変わっている。随時の対応が良い気がする。参考意見として。

今、公民館などいろいろな会場の使い方において、市から面積がこれくらいなら机があれば何名、いすで何名というガイドラインが出ているが、公民館でバラツキがある。

この公民館の大きさだと会議をするときには20名だけれども、他の公民館では30名だとか。同じ会議でも統一ができないので、ある程度統一してもらおうと助かる。意見ということで。

ガイドラインについて公民館によってバラツキがあるということだが、承知していなかった。

最初の質問であるが、先のこといろいろと変わっていくということは委員の言うとおりだと思う。今回、来年の4月以降の対応については遅くとも今の段階で決めなければ、会場の確保や講師との調整などが非常に難しくなるし、募集ができなくなってしまいますので、この段階で決めたい。あわせて4年度以降についても、来年の今頃にはどうするのかを決めていないと同じ状況になるので、今から意見をいただきたいということである。

4年度以降をどのくらいのスパンのものにするのかということ、コロナを取り巻く環境や対応、この辺の動きを踏まえながら検討させていただき、また、意見もいただくということで取り組みたいと思っている。変わらざるを得ない部分をしっかりと出し、そこでやっていく中で何年かで変わることはあるかと思う。1年1年という訳にはいかないと考えているのでご理解いただきたい。

コロナについては見通しが持てないので、コロナの状態であじさい大学を運営していくということを当面考えていかななくてはいけないと思う。そうすると高齢者が対象なので高齢者の健康、安全を守りつつ、できることは何なのかとかいうことを考えると、例えば「3密」を避けるという条件もあったが、このウィズコロナの時期、あと2年、3年、4年、5年かもしれないが、20名という定員を外して、広いところで少しは人数を入れて、細々とでも、思いのある方の思いを受け止めて大学を開催するということがどうだろうか。高齢者の安全を守るために、今年はもう仕方がないと思う、こんな状態だから。でも、ワクチンが出始めた、薬も情報が出始めたというときには、全開はできないが少しずつ開いていくというのを考えたらいかがか。そのためには当面、来年の後半、再来年、定員の枠というのを考えてみるということもどうなのかなと思う。

定員については事務局としても非常に悩んだところである。仲間づくりも非常に重要にしていたあじさい大学で、和気あいあいとして一緒に学ぶ、それをどこまで人数を落とせるのかということで、当面ハードルが高いかもしれないけれども20名としたところである。今後の見直しの一つの部分とも考えているが、令和3年度に向けては、令和元年度と同じ最低20名は、事業としてやるからには必要だと判断したところである。

社会ではアクリル板などを使っている。講師と受講者の間にアクリル板を入れるなど、密を避けるための工夫をしている。長くなり、今年もやめよう、来年も再来年もやめようとなると、あじさい大学の価値は何なのかということになってしまうと思う。健康を守らなければいけないし、ここからクラスターを出してはいけないということは十分分かる。お金がかかるかもしれないが、安全でできることは少しずつ工夫してみてもいいのかなと思う。

各講師に、このくらい的人数で、広さもこのくらいの場所が欲しい、そしてこのような安全対策をするということを出してもらったらどうか。

例えば、コーラスはもう公民館で練習を始めているが、やはりその部屋の半分の人数で行っている。それまでよりも大きな会場であれば、前半、後半に分かれ、時間は少し短くなるが入れ替え制にしている。マスクとフェイスシールド着用、30分毎の換気、検温、消毒などは全て行い活動を開始している。あじさい大学でも15名以上で、20名以内なら何とかコーラスはできると思う。募集人数を少なくする、もう少し広い部屋を確保する、そのような対策を取りながら、他の学科はどのようにできるかを出してもらい、令和4年度はどのような授業を行えばいいかを検討してもらえばいいと思う。

個人でダンスを教えている。生徒が多い少ないで違うが、今までは20名を1時間で1回やるところを、40分で10名ずつ2回に分けようとしている。生徒と講師によって違うが、長時間は無理だからということで、複数にする方法も一つの案だと思う。ただ、手間や授業料もからんでくる。参考意見として。

フェイスシールド、マスクそして消毒などの徹底をするということ、各学科における人数や時間をどうするのかなども今後の問題ということで、頂いた意見も参考としたいと考えている。

アクリル板などの配置は、24回の開催が固定した会場ではないためどのように行うのか。その都度設置し撤去するとなると、それ自体がまたリスクになりかねないということもある。入れ替え制ももっともだと思う。他の講師からも、時間を半分にしてい入れ替えて、途中休憩も取り、換気も消毒もするという話ももらっている。先ほど言われたように、受講料が関係するし、先生方とも2時間でどのような形で進められるのかを詰めるのにある程度時間を頂かなければならないことから、令和3年度については、ここでお示ししたとおり進めさせていただきたい。令和4年度については、どのような方法がいいのか意見を頂ければと思う。

(3) その他

次回運営委員会は1月に開催することとし、具体的には今後調整することとした。

閉会

あじさい大学を始めて今年で40回になる。この大学は生きがいと仲間づくりだが、本当の生きがいと仲間づくりとなっているのか。40年前と今の時代のあじさい大学とでは大分時代の推移があるので、あじさい大学の必要性があるのかないのかを今後議論してもらいたいと思う。学習の中で仲間づくりはできるが、そのつながりが一つの点であって、楔にはなっていないような気がしている。だから楔になるようなことを考えていただければいいと思う。

あじさい大学運営委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	委員長	出席
2	安藤 正義	老人クラブ連合会会長	副委員長	出席
3	大久保 祐次	社会福祉協議会理事		欠席
4	板倉 忠臣	老人クラブ連合会副会長		出席
5	八木 鉄雄	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
6	堤 道子	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
7	高井 登志子	公民館連絡協議会副会長		出席
8	八木 朋子	学識経験者		出席
9	池田 直道	市文化協会 会長		欠席
10	佐藤 暁	市スポーツ協会 常務理事		出席
11	平岡 亮一	講師代表（健康1）		欠席
12	大沼 ケイ	講師代表（健康4）		出席
13	欠員	学生代表		
14	欠員	学生代表		